読売歌壇

小池光 選

懐かしやリンゴみたいなほっぺの子みつけて嬉し登校の列　横浜市　桃井　恒和

【評】言われてみれば、たしかに今の子供たちは赤いほっぺをしていない。リンゴみたいな頬は、健やかさのシンボルだった。今朝の通学風景、その赤いほっぺの子が一人いた。

喉元まで思い出したる人の名を一歩足らずに「あれだよ、あれあれ」　新潟市　古泉　浩子

【評】年とると誰でもそうなるらしい。かの斎藤茂吉にも名前が出て来ず、苦しむ歌がある。喉元まで出かかって「一歩足らず」というのがこの状況をよく言いおおせている。

背伸びしてまた背伸びして歩みゆく尺取り虫はなにを見たのか　東京都　新美喜代男

【評】ふしぎな歌で、妙におもしろい。尺取虫はまさにその名前の通り「尺」を「取り」つつ進む。神さまはふしぎなものを創られた。

ま寂しきものに師走の動物園　塀の内より象の鳴くこゑ　下関市　森　利治

わが庭にうぐひす色の鶯のなきがらありて埋めでやりたり　小美玉市　松山　光

百円のナイフを持ちてコンビニに押し入ることを知る悲しさよ　千歳市　鶴谷　雪子

「歯がなくてくしゃくしゃ顔もかわいいよ」じいじが好きという孫娘が居て　船橋市　田口　勝見

倒壊の家の前には一鉢の白きシクラメン供へられたり　山形県　伊藤　啓泉

優しいなレジのあの子はいつの日も街のみんなの人気者だね　鳴門市　楠井　花乃

入選のたびに電話をくれる友春菊栽培いそがしき中　匝瑳市　椎名　昭雄

栗木京子 選

贅沢は胸下までとす被災地を想いて満たすわが家の風呂の湯　東京都　白波　悠子

【評】断水の続く能登半島地震の被災地。入浴が困難な方々を思うと、たっぷりの湯につかるのは申し訳ない気がする。「胸下まで」という具体に心情がよく表れている。

わたしもよ明石の君ねと手をとりて仲良くなったデイの友達　岡山市　前原　和子

【評】『源氏物語』に登場する女性の中で誰が好きか、と話が弾んだのであろう。「明石の君」は運命を静かに受け容れる聡明な女性。文学を語り合える友達ができて良かった。

初売りの山と積まれし段ボール中から朝寝の猫が飛び出す　東京都　田中　隆

【評】積まれた段ボールの奥から猫が飛び出したのであろうか。初売りの賑わいと猫の愛らしさ。新年の晴れやかさが伝わる。

大騒ぎ「竹と土、木で出来ている」孫は壁たたく婆ちゃんの家　奈良市　甲斐田八重

節分に無言で食べる恵方巻毎日三食私は無言　大津市　杉江　典子

苦しいと言わずに死んだ父の魂ゆったりと行く冬の浮き雲　松江市　三方　純子

繰り返し流るるニュース戦争とボランティアとが影と光に　四街道市　望月　正彦

正面に「和顔愛語」の扁額飾る村の総会舌戦止まず　桜井市　山本　光男

七回忌で墓前に揃うその中に母の知らない曾孫が二人　習志野市　吉田　昌子

AIが牛の言葉を話したらもう牛丼を僕は食べない　横浜市　芝　公男

俳万智 選

ババなんて持っていないの顔をする近ごろどうだと娘に問えば　東京都　富見井高志

【評】父は、娘の表情に何かしら心に隠し事がある気配を感じたのだろう。ババ抜きの比喩が秀逸だ。かつてトランプで遊んだような仲良き距離感も出ている。

オリオンが空を横断する間きみの寝顔を見つめたかった　大和郡山市　大津　穂波

【評】上の句は、つまり「一晩じゅう」ということなのだが、なんというロマンティックな表現だろう。夜空の星を時計代わりにしてしまうスケール感が、愛の大きさをも思わせる。

口に出すほどではないけど嬉しくてこんな時こそシッポがほしい　守口市　小杉なんぎん

【評】言葉にするのは大げさだし、ガッツポーズとかも恥ずかしいし。なるほど、シッポとは自然に喜びを表現できるすぐれものなのだ。

まつげにも積もろうとするその雪と同じ思いで愛していたよ　高島市　宮園佳代美

気づいたらポストにあった不在票ハンカチ落としに少し似ている　東京都　武藤　義哉

上の句も下の句もまた瑞々し半分売りのすずしろの白　足利市　坂庭　悦子

霜柱踏める道あり冬場のみ僕の出勤経路は変わる　富士見市　松本　尚樹

柄のない布団カバーを選ぶような私を選ぶような君なら　横浜市　笹木　汀

あの人になれる気のした少女の日窓辺にひとり詩集を読みて　仙台市　小野寺寿子

ビックリマンシールのほうが捨てられてしまう未来がすぐそこにある　松原市　たろりずむ

黒瀬珂瀾 選

非正規は触れてはならぬと暗黙の決まり有るなりエアコンボタン　狭山市　奥薗　道昭

【評】世間にはこのような、目に見えぬ断絶が山のようにある。理不尽な暗黙の了解をやり過ごしつつ働くという現実があります。

良きニュース読みたくなりて「エンタメ」の項を開けば誰か不倫す　静岡市　海瀬安紀子

【評】戦争、災害、政治家の不正……ひどいニュースがあふれる現代は、他者へのバッシングを娯楽として消費する社会でもある。芸能人の逮捕も不倫も「エンタメ」枠で配信するのは、メディアも少し考えて欲しいな。

無期囚と齢同じき老看守「先に出る」とぞ定年を告ぐ　仙台市　長岡　義宏

【評】刑務所にも社会があり、人間関係があり、別れがある。看守には定年があり、無期囚にはない。それが受刑者の定めなのだ。

身をすくめ避難所に眠る人ら思ふこころ痛々し夜の白雲　青森市　安田　渓子

生還の父より命受け継ぎて和のつく名前背負いて生きる　香取市　清水　和子

おのづから報復とふ語の飛び交ひて戦なき世の難きを思ふ　藤岡市　丸山　直樹

がんばれーのれーの語調のタンポポの黄に照らされて立春間近　下野市　海老原愛子

普賢岳の荒き山肌あきらかに対岸に見ゆ霜ふかき朝　天草市　野口久仁子

詠みて救はれ読みて傷つき母想ふ今日の波濤のさらに高しも　日高市　柳橋　正人

志ん生の火焔太鼓を聴きながら何とかなるか明日は明日　札幌市　多米　淳

◇投稿規定◇　はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名（ふりがな）、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、日本橋郵便局留、読売歌（俳）壇、○○先生（希望選者名）係または読売新聞オンラインから　◇毎週月曜日に掲載　右の影絵はもものはな